

■実施設計の報告について

【平成 27 年 12 月 1 日第 29 回委員会にて説明済みの VE 提案による主な変更点】

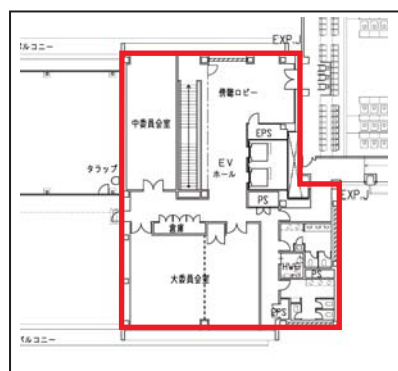
- 外装の合理化
窓上庇をプレキャストコンクリートから金属製に変更しました。
- 屋上室外機目隠し壁の変更
材質の変更、高さの見直しによりコストを削減しました。
- 新築棟断面計画の見直し
1 階床レベルの見直し、各階高の縮小により、土工事、躯体、仕上げ数量を削減しました。
- 既存庁舎上部解体工法の見直し
解体工法の見直しにより、コストが高いブロック解体の範囲を縮小しました。
- 新築棟の構造形式の変更（鉄骨造⇒CSBeam 工法）
三者協議会及び構造部会にて検討の結果、コスト削減案として大成建設の特許工法である CSBeam 工法を採用しました。
ロングスパンの大梁及び小梁のみ鉄骨造とし、それ以外は鉄筋コンクリート造とする複合構法により、柱の無い大きな執務空間を確保しながら、高騰している鉄骨の使用量を削減、工期を短縮します。

【その他の主な変更点】

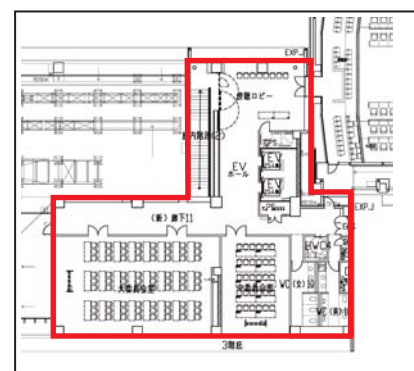
- 新築棟 4 階プランの変更
合理的な構造架構と、大・中委員会室の使いやすい配置を考慮してプランを L 型に変更しました。
- なし棚コリドールの変更
機能性を考慮して、2つのエントランス庇とそれらを繋ぐコリドールの構成としました。
2つのエントランス庇は、車寄せとして大型バスが寄り付ける高さを確保し、遠くからでもエントランスとして認識しやすい特徴的な形状としました。
バスの待合としての機能を併せ持つコリドールは、雨の吹き込みを考慮して高さを抑えました。
- 渡り廊下 1 階部分の外壁化
法的な要因及びコスト削減のため、1 階部分の外壁を取り止めました。
雨の吹き込みを抑制するため、ルーバーを設けます。



北側外観パース



■新築棟 4 階プラン（基本設計）



■新築棟 4 階プラン（実施設計）

• 議場屋根の変更

屋根上への設置を予定していた太陽光パネルを新築棟屋上に設置することとなったため、南に傾けた勾配に縛られることがなくなりました。
議場の天井は全体の高さを抑えつつ、床が高くなる議長席、傍聴席の天井を高くした緩やかな V 字形の形状とし、合理性とシンボル性を両立させました。



南側外観パース